

少人数の学校のよさを生かす

少人数となった学校のよさを生かした教育の展開や学区の変更なども考えられる。

メリット

- 少人数によるきめ細やかな指導
- 増加する空き教室を多様な教育活動に有効活用
- 地域の拠点としての学校という現状の維持

デメリット

- 人間関係の固定化
- 切磋琢磨する環境と多様な考えに触れる機会の減少
- 教員数の減少
- 登下校指導、学校行事等の保護者負担の増加
- 部活動の運営の厳しさ（中学校）

学校の再編

学校を統合して、より規模の大きい学校とする方法

メリット

- クラス替えができることで固定化された人間関係の改善
- 切磋琢磨する環境と多様な考えに触れる機会の創出
- 複式学級の回避
- 学校に配置できる教員数の増加

デメリット

- 一部児童生徒における通学距離・時間の増加
- 学校再編の対象となる児童生徒への心のケアの必要性
- 地域シンボルの変化への懸念

小中一貫校

小中学校を統合し、9年間を通じた教育を行う方法

メリット

- 中1ギャップの緩和
- 異校種、異学年、隣接校種間の交流の深化増大
- 9年間通じた特色ある教育活動の展開
- 学校再編に際し、心の負担が軽減

デメリット

- 小中学校が単級の場合、固定化された人間関係の9年間継続の懸念
- 義務教育学校とする場合、教員の配置課題（免許関係）

学校のあり方検討委員会

対策として考えられることとしては、これらが挙げられます。それぞれにメリット、デメリットがありますので、児童生徒数、教育にかかる費用、町の財政、地域住民の声などのデータも参考資料とし、総合的に判断していく必要があります。

・第1回会議内容の概要

令和2年7月27日(月)に第1回学校のあり方検討委員会を開催しました。

内容は、各委員へ委嘱書の交付を行い、委員長・副委員長を決定しました。

また、この委員会の役割や長瀬町立学校の現状について確認をした後、今後の日程や進め方について協議を行いました。

・第2回会議内容の概要

令和2年10月14日(水)に第2回学校のあり方検討委員会を開催しました。

本会議では、教育委員会から委員長に諮問の通知をお渡ししました。

その内容は、「今後の望ましい学校教育のあり方について」と題し、長瀬町における児童生徒数の推移を踏まえ、長瀬町立小中学校において、将来にわたりより良い教育

環境を維持するため、児童生徒にとつてどのような教育環境が望ましいのかを総合的に検討し、将来を展望した学校教育のあり方について諮問するというものです。

その後、住民からの意見収集の実施や今後の具体的なスケジュールについて協議をし、まずは小中学校に児童生徒を通わせている保護者や、これから小中学校に入学予定のお子さんをお持ちの保護者の意見をアンケートにより伺い、その結果をふまえて、今後の取組について委員会で検討をしていくことになりました。

今後の進め方

現在、学校のあり方検討委員会会議を2回開催しており、12月中旬に第3回会議を開催します。

今後はアンケートの内容や実施時期について検討していきます。

また、町長と教育委員会が教育の重要な事項について協議する「総合教育会議」の場においても意見交換を行っていきます。

検討の進捗状況につきましては、今後定期的な広報紙やホームページでお知らせをしていきます。

問合せ

教育委員会学校教育担当

☎ 66・3111

内線3003